

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ 学校力向上プラン【学校評価書】

堺市立 三国丘小 学校
校長 安原 巧

中学校区におけるめざす子ども像 自分も人も大切にできる子どもたち 主体的に考え行動できる子どもたち ～「時を守り 場を清め 礼を正す」ことを通して～

令和7年度 重点目標

- ◎人材の育成 : ○J Tを通して(学校全体) ○学習規律の構築と、人権教育の推進(全学年) ○いじめや不登校の未然防止と、学びの機会の確保(全学年) ○健やかな体の育成と、子どもの安全確保(全学年)
- ・『根拠をもって伝える力』の育成と、ICTの効果的な活用の研修(研修委員会) ・人権意識を高め、多様性を認め合える人間関係の形成(研修委員会) ・暴力やいじめを許さないという、人権意識や規範意識の醸成(生活指導委員会)
- ・いじめ不登校対策委員会での、組織的な早期支援体制の実践(生活指導委員会) ・狭い運動場での工夫した持続可能な体育・保健教育活動の実践(保体給委員会) ・安全教育・防災教育・食育指導の推進と、安全が担保される環境整備(保体給委員会)

「確かな学び」の現状

令和6年度の「全国学力・学習状況調査」および大阪府の「すくすくわか」の結果からは、比較的安定した学力が定着していることが確認できた。しかし、根拠をもって、自分の言葉で思いや考えを伝えるという点では未だ課題が見られる。また「学びのコンパス」の理念実現のため、学びを深める姿の共通理解を図る必要性が高まっている。そこで、今年度の研究主題を「自分の考えや思いを根拠をもって伝え合うことができる子どもの育成～伝え合うことで学びを深める姿をめざして～」とし研究授業を行い、実践を通して検証を進めていく。公開する場面は、教科を固定せず主題に沿った提案が最も効果的に表れる授業場面で行う。このような取組を通して、より「確かな学び」の定着を図っていききたい。

「豊かな心・健やかな体」の現状

本校の学校教育目標は「学び合う子 助け合う子 たくましい子の育成」である。高い人権意識を醸成するためにも「相手の立場を思いやり、豊かな心や秩序を重んじる」「社会性を身につけるための規範意識の育成を進める」「いじめを許さないという人権意識の醸成」を中心に指導を行う。豊かな心の育成に必要な不可欠なのは、いじめや不登校の早期発見・早期解決である。指導の重点として①積極的な生徒指導と不登校対策委員会の積極的な活用、②不登校(傾向のある)子どもへの学びの機会を確保、③非行防止・犯罪被害防止教室など堺少年サポートセンターや警察署との連携、の3点を掲げ実践していく。「みんなく」「体力向上」についても、生活習慣へ働きかけ意識を高めていく。

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組 ★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～10月)	達成状況(年度末)			
								自己評価	学校関係者評価		
確かな学び	ICT	ICTを活用した各学年で定められた情報活用能力の知識及び技能の習得	ICTを活用した学習展開の工夫をめざし、研修や授業研究に取り組む	・「タブレットを活用した授業ができる」の肯定的評価80%以上	教員アンケート	12月	○ 日々の授業の中で、教科を問わず、タブレットを使用した授業が展開されている。より効果的な活用については、研究授業等での活用機会を通して検証していく。	△	先生たちの肯定的評価は73%。ただ2月に新タブレットiPadが導入されたが、大きな混乱もなく、活用した授業が継続されている。今後、持ち帰りも必要とされており一層のマナーや情報モラルの指導を行っていく必要がある。「できている」評価は85.1%であり手ごたえを感じている。	△	ICT活用も進んでおり新タブレット導入も円滑。より効果的な研究を続けてほしい。タブレットは朝の会等でも活用を期待。導入には不安やご苦労もあるだろうが前向きな姿勢は高評価。タブレットの重さなど課題はあるがうまく活用してほしい。デメリットも含め丁寧に使用を進めてほしい。
			児童1人1台の活用推進のため、情報活用能力や情報モラルを育む授業を実施する	各学年での目標について「できている」の肯定的評価80%以上	学校教育アンケート	12月	○ 活用を促していくためにマナーや情報モラルについて生指面も含め指導中である。	○		○	
	人権教育	相手の立場にたって自ら考え、行動できる児童の育成	全学年で系統立てた道徳と人権の授業を行い、どの子も安心して学校に通えるように、相手を思いやる気持ちを涵養する	「人の気持ちが分かる人間になりたいと思う」の肯定的評価85%以上	学校教育アンケート	12月	○ 担任団が協力して「交換道徳」を実施するなど工夫をし道徳授業の内容の充実を図っている。授業後の情報交換も含め児童理解が深まっている。	○	「人の気持ちのわかる人間になりたいと思う」は87.5%の児童が肯定的評価。道徳教育が進んでおり、学年に応じた人権教育も深まりを感じている。	○	思いやりや人権意識の高まりを感じる。工夫した板書も見た。子どもが気持ちを出せるクラスづくりに努めている。堺人研の発表ご苦労様でした。普段の生活へ還元を。
			●★低・中・高学年ごとに定めた伝える力の目標をめざした授業研究に取り組む	「児童が自分の考えを伝えられるように指導方法の工夫を行った」の肯定的評価80%以上	教員アンケート	12月	○ 各学年1回ずつの研究授業を実施。その都度の協議会、教育委員会指導主事の指導をいただくことで研鑽を深めてきている。	◎	道徳も含め年6回の研究授業を実施。根拠をもって伝える力を伸ばす授業ができた。また研究授業のたびに教育委員会の指導主事から「学びのコンパス」を踏まえた指導を受けることができた。研究授業の中では「ペア」「グループ」などで話し合いを進める場面が設定されていたが、より深まりを見せる「対話」へ向かうように今後も研鑽は必要。児童自らが話し合うことで高まりを感じ「話し合ってたよかった」と思えるような展開をめざしたい。肯定的評価は上から87%、85.7%、84.9%であり意識の高まりを感じている。	○	道徳教育が子どもの成長につながればと願っている。研究授業の成果には高評価。全学年を対象に研鑽されているのが素晴らしい。よくがんばっている。伝える力を育てる授業が定着。伝達のスキルや対話的な学びも広がりを感じている。対話心も成長させる礎になる。「話し合ってたよかった」が日常的に生かされていてほしい。対話的な授業が増え、子ども・大人とも理解しやすい環境が整ってきているのが良い。
	授業づくり	自分の考えや思いを根拠をもって伝えることができる児童の育成(小中一貫がラドデザインに基づく)	★話し方・聞き方の型を用いて伝える力の基礎の定着を図る	「クラスやグループ・ペアで話すときは、自分の考えを伝え、友だちの意見もしっかり聞いている」の肯定的評価80%以上	学校教育アンケート	12月	△ 研究授業テーマ「根拠をもって伝える」を実現するため「話し合い」から「対話」をめざして工夫を練っている。成果については今後の検証が必要。	○		○	
			★学校生活全体を通した「伝える場」を設定し、伝える習慣をつける	「学校生活の中でクラスやグループ、ペアで話すことができた」の肯定的評価80%以上	学校教育アンケート	12月	○ 「伝える場」づくりは授業の中でも定着してきている。内容の充実のため「何のための話し合いか」「話し合った後の変化はあったか」など効果を検証していく。	○		○	
豊かな心	豊かな人権感覚	一人ひとりを尊重し、温かい人間関係づくりができる児童の育成	いじめについての正しい知識をもたせ、生活のなかで活かせるようにさせる	「いじめられている子を助けたいと思う」についての項目で肯定的評価80%以上	学校教育アンケート	12月	○ 学校生活の中で担任を中心に教師団がいじめに対する意識を高くもち「いじめアンケート」などの子どもの声にはすぐに対応するように努めている。	○	児童の肯定的評価は87.6%。いじめを許さないという空気は醸成しているがさらに高めたい。個別の相談にもすぐに対応する学年団による担任の視察も大きい。	○	人権意識が育っておりいじめも少ないと感じる。先生たちがチームになりすぐ相談できることが高評価。信頼できる大人がそばにいるのが安心感へ。大人も頑張りたい。
		豊かな規範意識	自分も他人も大切にし、率先してあいさつができる児童の育成	●学校のきまりを職員全員が共通理解し、児童に発信することにより、規範意識の醸成を図る 教師の率先垂範とあいさつ週間の充実により、あいさつの励行を進める	「学校のきまりを守っている」の肯定的評価80%以上 「学校で先生や友だちに自分から進んであいさつをしている」の肯定的評価80%以上	学校教育アンケート	12月	○ 各学年から選ばれた生指委員会の先生を中心に学校のきまりについて随時見直しをし指導がなれないように配慮している。 ◎ 低学年を中心に、朝は元気な挨拶の声が響いており、刺激を受けた高学年も声が出るようになってきた。挨拶強化週間などの取組も意識向上に役立っている。	○	全校朝会、学年集会などの機会を活用し、学校のルールを確認、年度末反省や職員会議で統一すべきルールは職員間の意識統一が図られてきた。挨拶は「あいさつ運動」も含め、身につくつあり、見守りの方、安全管理員など子どもをよく知る方からお褒めの言葉もいただいた。肯定的評価は上から83.8%、81.7%。	○
健やかな体	健康な体づくり	健康な体づくりを主体的に考え、実践する子どもの育成	●栄養教諭と担任等が連携して食育を行い、食の大切さを知らせ、朝ごはんの定着と給食の残量減をめざす	学校教育アンケート(保護者)「あてはまる」85%以上 1学期より残量を減らす	学校教育アンケート 堺市残量調査	1月 6月・11月	○ 栄養教諭が学年に応じた指導をするともに給食時の教室見回りにより給食を頑張ろうとする雰囲気づくりに努めている。	○	食育の推進も「あてはまる」は88.4%の評価。日々の指導が成果を上げている。体力づくりは「おうち体育」など本校独自の取組も行っているが、肯定的評価は74.3%。児童数が増える中、安全対策もして運動場で思いっきり体を動かすことには困難があり、体育授業の充実を図りたい。	○	栄養教諭の存在が大きい。食の意識、体力向上の意識は育っているが家庭も巻き込んで頑張ってもらいたい。地域では子ども食堂もできた。おうち体育もいろいろ保護者への啓発も大切。運動場の狭さは仕方ないかな。体力づくり推進は重要と伝えていってほしい。
			児童一人ひとりが個々の課題を知り、自ら実践する力を育成するために「おうち体育」を進める	「おうち体育を使って、体力づくりをしている」の項目での肯定的評価80%以上	学校教育アンケート	1月	△ 児童数の増加もあり、狭い運動場での体育・体力づくりには課題が多い。おうち体育の充実や啓発を図りたい。	△		△	

校長より(年度末) 児童数が増えることで、不登校への対応、新たな学びの場の確保、生徒指導面の徹底など、新たな課題が生じる中、担任の先生をはじめ多くの先生が協働し、解決のために奔走している。子どもたちのより良い成長を支えるためにも、子どもたちに関わる時間を十分に確保し「働き方」を改革していく必要を感じている。保護者や地域の皆様の協力と理解に感謝しつつ、大規模校である三国丘小学校の未来を語り合っていきたいと考えている。

学校関係者評価者から(年度末) こどもたちが安心して学べる落ち着いた学校づくりに努めてくれている。大規模校の大変さを聞きながら、様々な工夫がなされていることが分かった。今後さらに児童が増加すること。子どもと先生が生き生きとやりがいをもって仕事をしてほしい。教師が一丸となり子どもの成長を支えていることがいろいろな判断材料となる資料を見せていただけてよかった。今後とも、朝のあいさつ運動を続けるなどして地域とより一層つながり、学校の子どもたちを育てていってほしい。